

産学連携で共同研究を推進 卒業生とのネットワーク強化へ



実験に参加しているのは次の皆さん：

藤本雅則准教授（大学院・機械工学・平成9年卒）、松井康浩連携推進課主幹・URA（大学院・電気電子・平成21年卒）、
夏梅大輔成宏電機社長・地方創生研究所主任研究員（大学院・電気電子・平成11年卒）、下平優希さん（機械工学科4年）、
増原智也さん（電気電子工学科4年）、木村有さん（電気電子工学科4年）

金沢工業大学では、白山麓キャンパスにある地方創生研究所で、太陽光や水力、バイオマス、風力などの再生可能エネルギーなどを組み合わせ、4棟のコテージや電気自動車の電力をまかなう実験を行っています。

研究用いちご圃場に設置されたハチなどの動きを監視する360度カメラ



地方創生研究所イノベーションハブで実施されたハッカソン（エンジニアやデザイナーなどが集まって、特定のテーマに対してアイデアを出し合い、アプリケーションやサービスの開発を競い合うイベント）の様子



産学連携で共同研究を推進



エネルギー管理プログラムで使われている電気自動車



クリエイティブスタジオでイノベーション創出のための作業や打ち合わせを行う様子

卒業生とのネットワーク強化へ

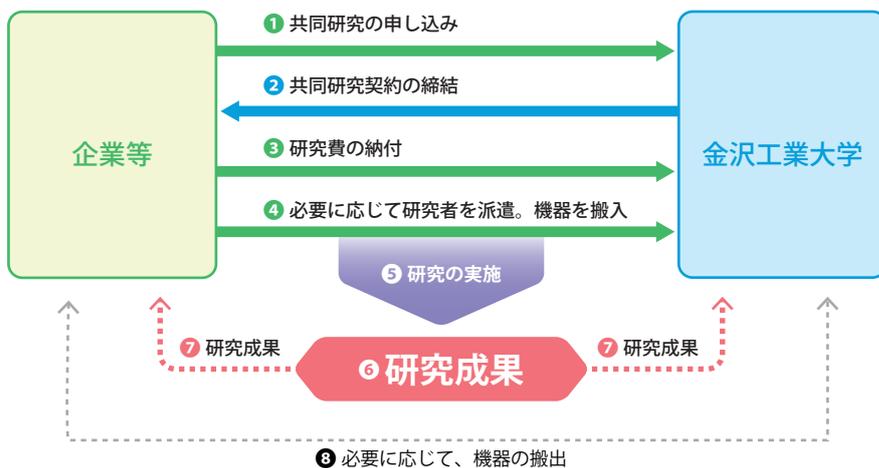
金沢工業大学では、建学の綱領にある「産学協同」を軸に、「共同研究」に力を入れており、実社会におけるさまざまな問題解決に積極的に関わり、新たな技術革新を起こしています。今後、卒業生とのネットワークを強化し、研究成果をフィードバックしたい考えです。

共同研究には、「エンジンの技術的な問題の解決」といった研究分野を限定したものから、研究分野の垣根を越えたビッグプロジェクトまであります。このような共同研究は、企業にとって新たなビジネスを生み出すチャンスとなり、一緒に研究に関わっていく学生の教育の場ともなっています。

金沢工業大学は、「革新複合材料研究開発センター」「地方創生研究所」をはじめ、36の研究所を有しています。研究所での専門的な知識やノウハウを実社会に還元することは大学の役割であり、企業との連携が欠かせません。現在、その輪を広げていくため、卒業生が所属する企業とのネットワークの強化に努めています。

共同研究の進め方

金沢工業大学と企業・研究機関等の研究者が共通のテーマを共同で研究を進めます。



■ 研究開始までのプロセス

共同研究を希望する企業・団体等は、研究支援推進部に相談した上で、研究者との三者面談を行います。さらに、研究内容の審議・審査を実施した後、契約を結ぶこととなります。



※委託研究は金沢工業大学の研究設備を活用して、委託されたテーマについて研究・調査や技術指導(コンサルティング)を行います。

■ 産学連携の実績

金沢工業大学では、教育・研究活動の充実を図るため、積極的に研究を受け入れています。その件数は年々増加しており、特許出願数も年間30件前後で推移しています。

令和元年度

共同研究受入状況

185件

委託研究受入状況

70件

特許出願件数

51件



共同研究から社会実装へ

イノベーションの多くは産学協同の中から生まれることから、大学のフィールドと企業のフィールドを強固に組み合わせた連携プロジェクトを推進し、その中で生まれた成果は社会の中で役立っています。

CASE 01

眠気をスッキリさせる炭酸飲料 メガシャキ

感動デザイン工学研究所が、ハウスウェルネスフーズ株式会社(兵庫県伊丹市)と共同研究を行ったのが、スパイスの刺激で眠気をスッキリさせる炭酸飲料「メガシャキ」です。

大学生を対象にメガシャキを飲用した際の気持ちの変化を確認したところ、70%以上の方が「気持ちがポジティブになった」と感じました。スパイスの辛味が気持ちの転換に影響を及ぼしたと考えられます。

この研究結果をうけ、ハウスウェルネスフーズでは、より気分を高め、やる気を引き出すことのできる飲料の開発に着手しました。「メガシャキ ENERGY SHOCK」と名付けられた新製品は、ジンジャーのピリッとした心地よい刺激とハチミツ風味のやさしい甘さが特長で、平成28(2016)年から平成30(2018)年まで販売されました。



CASE 02

日本酒がコラーゲン量を増やす 「 α -EG」(日本酒の成分)

応用バイオ学科の尾関健二研究室と株式会社車多酒造(石川県白山市)の研究グループは、一般的な日本酒に0.5%含まれている旨味成分「 α -エチル-D-グルコシド(以下、 α -EG)」が、ヒトの皮膚真皮層のコラーゲン量を増やすことを、世界で初めて証明しました。

この研究では塗布試験と飲用試験により、 α -EGが肌に作用していることを解明したものです。1週間程度の適量飲酒でコラーゲン密度が継続して高まっていることが認められました。数週間にわたって肌に効果が見られ、塗布よりも飲用の方が期待できると分かりました。

尾関健二教授は「日本酒の復権につながる一助となれば幸いです」と語っています。これまで尾関研究室では、培養細胞を使った実験により α -EGに保湿機能があることを発見していました。



横断的に研究を行う地方創生研究所（白山麓キャンパス）

過疎化などの問題に直面している地方再生を主眼に置いた研究機関として設立されました。地元企業や産業界、自治体との連携を通じて、新たな技術やシステムを開発します。

CASE 01

次世代営農システムを構築 農業 ICT プロジェクト

北菱電興株式会社（石川県金沢市）と共同で平成30（2018）年2月から「ICTを活用したいちご栽培」について研究を進めています。

実証実験では、いちごの生育環境を一定に保つ「環境センシングシステム」、いちごを自動で収穫する「自動摘花・摘果ロボット」、バイオマスボイラーによる「クリーンエネルギーの導入」などに取り組みました。

農事組合法人んなーがら上野営農組合（石川県白山市）と北菱電興が共同運営する「いちごファームHakusan」（石川県白山市）を営農モデルとし、ハウス内の環境を一定に保つことで、品質のばらつきを抑えたいちごを栽培する実験を行っています。この施設では、いちご摘み体験ができ、一般開放することで地域経済の活性化にも一役買っています。

令和元（2019）年10月には、白山麓キャンパスに研究用のいちご^{ほじょう}圃場を設置しました。この圃場では、石油に頼らない暖房システムを整備しているほか、いちごの光合成を促進する二酸化炭素を大気から濃縮生成する装置も導入しています。

また、360度高解像カメラの映像を5Gで送信することで、ハウス内の様子を遠隔地からリアルタイムで監視できるシステムの確立も目指しています。



環境に優しいブランドいちごに
なる可能性があります



白山麓キャンパス内の研究用
いちご圃場。遮光カーテンの
開閉なども自動で行われます

CASE 02

エネルギーのベストミックス目指す エネルギー管理プログラム

再生可能エネルギーの地産地消モデルを構築する「エネルギー管理プログラム」について、株式会社成宏電機（石川県小松市）などの地域企業と連携して実証実験に取り組んでいます。

このプログラムでは、白山麓キャンパス内のコテージの電力を地産地消し、熱と電気のベストミックスを探ることを目的としています。

発電施設としては、太陽光発電、バイオマス、風力発電、人力で発電する電動自転車などがあり、これらを組み合わせた再生可能エネルギーによる電力の地産地消が可能となっています。さらに、災害時には EV で電気を運び、道路が寸断された EV では行けない場所には自転車で運ぶことを想定しています。

プログラムには当初から、主任研究員として参画する成宏電機社長の夏梅大輔さん（大学院・電気電子・平成11年卒）が主要メンバーとして参加しています。夏梅さんは電機メーカーで大型の発電システムの設計・開発に携わった経験から大規模発電には限界があるとし、「化石燃料に頼らない電力の地産地消を進めることは環境問題に大きく貢献します」と話します。

また、このプログラムのように、大学をハブとすることで企業連携が進むとした上で、「中小企業の情報発信をアシストし、ブランディングにも

つながっています」と夏梅さんはその意義を語ります。



バイオマス発電装置
で地元産の木材チップ
を使用

Information

全力でイノベーション創出をサポート メンバーシップ・プログラム

地方創生研究所イノベーションハブでは、共にイノベーション創出に挑戦する企業・団体をメンバーシップとして募集しています。KITの教職員が実証実験のサポートを行うほか、最新の情報提供、施設の利用ができます。

所内の見学会を開催 オンラインにも対応

地方創生研究所では、見学会を随時開催しています。オンラインでの実施にも対応しますので、皆さんの課題をご相談ください。



大学と企業が連携して共同研究

大学が積み重ねてきた専門知識と技術は、企業と共同研究を行うことで、社会を変えるほどの大きな成果に結びつくことがあります。そのような事例を紹介します。

CASE 01

医学の進歩に工学分野の技術が貢献

医工連携プロジェクト

金沢工業大学では、新谷一博(大学院・機械・昭和55年卒)教授を中心に画期的な医療機器や新しい技術開発に挑む「医工連携プロジェクト」を推進しています。

プロジェクトの一環で、石川可鍛製鉄株式会社(石川県かほく市)と医工融合技術研究所(所長・新谷一博)では、従来よりもQOL(生活の質)の向上が見込める



「ドクターから高い評価を受けるとうれしいですね」と話す舛井さん



筋肉の弾力や骨格の動きなど、人体とほぼ同じ感覚で練習できます

「低侵襲型股関節手術(SPO法)」の手術技術の習熟を目指す股関節モデルの開発に取り組みました。

石川可鍛製鉄の舛井伸栄さん(大学・機械・昭和63年卒)は、7年ほど前から新谷教授と医工連携についての共同研究を行っています。皮膚や骨、血管など本物と変わらない腕や、褥瘡(床ずれ)を切除するための練習モデルなどを製作しています。

股関節モデルの開発の中心となったのは現在、安田工機株式会社(愛知県北名古屋市)に勤務する駒見宏輔さん(大学・機械・平成30年卒)です。プロジェクトデザインⅢ(卒業研究)のテーマとして選び、石川可鍛製鉄の技術で骨盤と筋肉、股関節を精巧に再現しました。駒見さんは「データではなく、実際にモデルを開発した経験を今後に生かしたい」と話します。

舛井さんは「試行錯誤した結果、全身の骨格モデルをつくるノウハウを得ました。少しでも医療の進展に役立ちたい」と笑顔を見せます。

企業の製品化をトータルコーディネート 産学連携が大学の多様性を生む

松井さんは、研究支援推進部で研究活動を効果的・効率的に進めていくために、トータルの企画・運営、知的財産の管理・運用等の研究支援業務に活躍されています。電力会社で培った柔軟な対応力が現在の仕事で役立っており、「目の前の課題をどのように工夫して乗り越えるかがマッチングの成否の分かれ目です」と松井さんは話します。

金沢工業大学は、応用研究を得意としています。アイデアを製品化するには膨大な開発コストがかかります。そこで、実証実験から製品化までを見据

えたトータルコーディネートを提案しています。さらに、研究を社会に実装するために、実証実験をしながら人材育成を組み込む教育研究に力を入れ、学生の学びの教育効果を高める役割も果たしています。

産学連携では「金沢工業大学と一緒に自社ブランドを立ち上げませんか」と呼び掛けます。今後は社会に必要とされる企業だけが生き残っていくと指摘する松井さんは「卒業生の方が働く企業の課題を解決していただくことで、社会に必要とされる多様性を持った大学に成長できます」と未来を見据えます。



産学連携局
研究支援推進部 連携推進課
主幹・URA

松井 康浩 さん
(大学院・電気電子・平成21年卒)



新型コロナウイルス禍で 生活困窮学生支援への ご寄付のお礼

学校法人金沢工業大学

理事長 泉屋 吉郎

学生への支援に感謝

この度の新型コロナウイルス感染症拡大によってアルバイト等が激減し、経済的に生活が困窮した学生(高専生、学部生、大学院生)を対象とした学生支援策において、金沢工科大学園同窓会こぶし会から多額のご寄付いただき、誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

おかげさまで、皆様のご寄付1億1,334万8,528円を困窮学生へ届けることができ、今春の大きな危機を乗り越えることができました。これも皆様の「学生の修学を支えよう」と温かい手を差し伸べてくださいましたおかげであると、心から感謝しております。

約30%の学生が困窮

4月16日に政府の緊急事態宣言が全都道府県に発出され、中でも石川県が特定警戒県となったことを受けて、本学園は直ちに遠隔での授業の体制構築を図り、全キャンパスに学生の立ち入りを禁止しました。さらに、学生と教職員の健康と安全を守ることを優先するため、学内外でのアルバイトを感染予防のために中止するよう全学生に要請しました。

このアルバイトの中止により、本学の74%を占める県外出身の学生の内、約30%の学生が下宿生活にも困窮するとの状況が把握され、保護者各位からアルバイト再開の許諾時期の見通しに関する問い合わせや経済的な厳しさの訴えが学園窓口には殺到いたしました。

本学園は、これまでに経験のないこの危機を乗り越えるため、学園の総力

を挙げて困窮学生への支援策として緊急生活支援金の給付を行うことが必要であると判断しました。

支援金を2度給付

そのため2段階の支援を前学期に行うこととし、学園の推計を基に支援額を算出し各団体へ拠出をお願いいたしました。学生生活困窮者支援金給付の結果は次のとおりです。

第1回目の支援は、石川県外からの下宿在校生に対し、1人あたり2万円を給付するための募集を4月25日～4月28日の期間で行いました。その結果、支援学生数は1,703名(学部生)。支給日は、ゴールデンウィーク中に受け取ることができる5月1日までに実施いたしました。第1回目の支援金給付額は、3,426万5,106円となりました。

第2回目の支援は、1人あたり3万円を給付するための募集を5月9日～5月13日の期間で行いました。その結果、支援学生数は3,357名(学部生)、5名(高専生)となりました。支給日は、5月22日までに実施いたしました。第2回目の支援金給付額は、1億108万3,422円となりました。

就学支援金も支給

2度にわたる支援金給付額合計は、給付金1億3,492万円で振込手数料42万8,528円の費用を合計して1億3,534万8,528円となりました。このうち、教職員の会から2,200万円、こぶし会から1億1,334万8,528円をご寄付いただき、申請対象者のすべてに給付することができました。誠にありがとうございました。

ございました。重ねてお礼申し上げます。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束はいまだに見通しがつかないこと、さらにアルバイトが激減した状態は変わらない状況が続いていることから、学園の修学支援策として、休学者、高専及び虎ノ門大学院(イノベーションマネジメント研究科)を除く学部生・大学院生の全員に対して、修学支援金として1人あたり5万円を支給することを決定し、本年度後学期授業料(学費)から減額する措置をとることといたしました。

学生のサポートの継続を

この度のこぶし会の皆様、教職員の皆様をはじめ、数多くの本学園関係者の方々に温かいご寄付をいただき、この心からのお支えに勇気づけられています。

これからも生活に困窮している学生に手を差し伸べられるようにしたいと存じております。今後とも、学生への支援を何卒よろしくお願い申し上げます。なお、本学園の前学期においては、一部の対面授業を除き遠隔による授業を実施いたしました。これまでの学習環境が大きく変わった学生の皆様への緊急アンケートを実施した結果「遠隔授業の総合的な満足度」では約80%の学生の皆さんから「満足」と評価されました。

また、後学期は対面授業を再開するに際し、キャンパスの3密を避ける遠隔授業を併用することで、約50%の授業を対面で行うことができいております。これも皆様のご支援のおかげと感謝しております。併せてご報告申し上げます。

PLUS 大学

「Team_Robocon」が3位入賞

オンライン!学ロボ FESTIVAL

金沢工業大学夢考房ロボットプロジェクトの「Team_Robocon」は令和2(2020)年9月26日に開催された「オンライン!学ロボ FESTIVAL」に参加し、3位入賞を果たしました。

「オンライン!学ロボ FESTIVAL」は、新型コロナウイルスの影響で中止となった「NHK 学生ロボコン2020」の代替イベントとして開かれ、27チームのロボットが特設ウェブサイト上で披露されました。

今年の大会の競技名は「ROBO RUGBY」で、7人制のラグビーをモチーフにした競技で、各チームはパスロボットとトライロボットの2つを製作します。夢考房チームはロボット開発のプロセスやプレゼンテーションの内容が評価されました。



3位入賞を果たした夢考房チーム「Team_Robocon」のメンバー

PLUS 大学

土木学会の田中賞(研究業績)を受賞

本田秀行名誉教授(元・環境土木工学科教授)

金沢工業大学の本田秀行名誉教授(大学・土木・昭和47年卒)が令和2(2020)年5月、土木学会の田中賞(研究業績)を受賞しました。



本田名誉教授の受賞業績は、「橋梁の動的特性の解明および近代木橋の設計・維持管理手法の構築」です。全国的に実施した多数の木橋に対する実橋実験とそのデータ分析や構造解析に基づく構造性能の評価、設計法や維持管理手法の開発などの成果が認められました。今年新型コロナウイルス感染症の影響から授賞式が中止となり、賞状と副賞が後日に届けられました。

田中賞は、橋梁・鋼構造工学に関する優秀な業績に対して授与される賞で、研究業績、論文、作品の3部門があります。

本田名誉教授は「受賞は私個人の業績でなく、長年にわたって共に研究してきた多数の本田研究室の大学院生や学部4年生、および学会などでの多くの研究者のご支援の賜物と思っており、感謝に堪えません」と喜びの声を寄せています。

こぶし会PRESENTS

クイズの学園 Vol.18

66号の答え

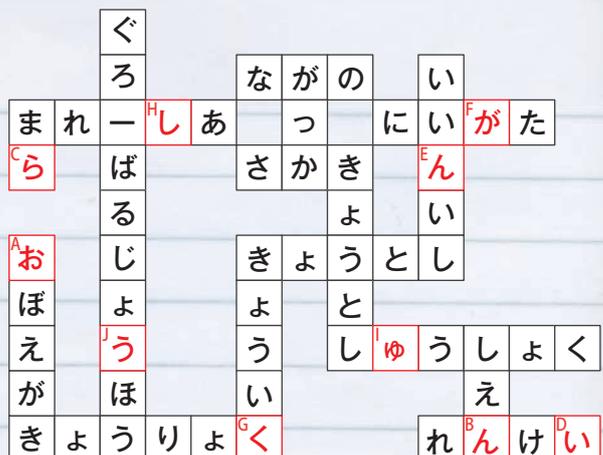
KIT検定(上級編)の答え

パズルは下の通りになります。
パズル内のA~Iの文字を拾って並べると

Aお Bん Cら Dい Eん Fが Gく Hし Iゆ Jう

となります。

今号は、クイズの学園Vol.19は都合によりお休みいたしました。次回、会報こぶし68号で最終回となります。奮ってご応募ください。



こぶし会の皆様との 協力のハーモニーを

学園の着実な歩み

新年明けましてお目出とうございませす。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

本学園は昭和32年に北陸電波学校として創立され、昭和37年には金沢工業専門学校を、昭和40年には金沢工業大学を設立し、爾来、保二会会員：2,228名、高専同窓会員：6,365名、大学同窓会員：67,682名の国家有為の人材を輩出して参りました。そして、これら3同窓会によって「こぶし会」が構成され、その会員は76,000余名を数えています。

現在、国公立大学（4年制）は780校を数える一方、人口動態の上からも少子化は回避できない状況の中にあつて、本学園は将来に亘つて健全に人材育成を継続する必要があります。そのことを視野に納めながら、大学創設30周年に当たる平成7年4月を期して、教育付加価値日本一を目指した第1次教育改革を実施に移し、平成28年3月に至るまで第5次に亘り全国に先駆け諸改革を推進しました。その後も終着駅のない改革を継続し、教育・研究・社会貢献の向上に努めています。また、高専にあつては4年前から白山麓キャンパスに新たに国際高等専門学校を開設し、グローバルに活躍できるイノベーターの育成を目指しています。

エンドレスの改革に対する外部評価

本学園は上述のような諸改革を推進して参りましたが、それらに対する外部評価の例を茲に紹介してみることに致します。

朝日新聞出版が'00～'21年に亘つて全国の学長からのアンケート、①大学の総合評価、②教育分野の評価、③研究分野の評価などを毎年纏め公表してきています。そのランキングでは、本学の場合、①については1～10位、②については1～8位、③については10～29位に位置しています。また、同時期における高校からの大学評価ランキ

ングでは、(1)総合評価については6～25位、(2)進学して伸びた大学については4～30位に位置しています。

その他、サンデー毎日誌の調査によれば「面倒見の良い大学」として今年度までに16年連続トップの評価を全国の高校の先生方から戴いております。

このような過分な評価を戴くことが出来た背景には、学生・教職員・理事が三位一体となつて、「建学綱領」をバックボーンに学園の行動規範である“KIT-IDEALS”の下に直向きに「自ら考え行動する技術者の育成」に邁進し、社会から必要とされ、信頼される学園に成長することを目指してきた成果に他なりません。そして、更に重要なことは本学園を巣立った卒業生の皆さん方の実社会におけるご活躍があつてこそ、本学園が標榜する教育・研究そして社会貢献の理念・目的が立証され、今日の基盤が明示的に築かれたのであります。茲に、改めて卒業生の皆さん方に満腔の感謝と敬意を表したく思います。

特別奨学事業へのこぶし会のご協力

近年、親子二代、三代に亘つてご子息・ご息女が本学園において研鑽を積まれる方々が見受けられてきており、誠に喜ばしい限りであります。また、第5次教育改革以降、本学を目指す志願者は延べ1万人前後を推移し、昨年度の統計によれば、全国私立大学の志願者数では本学は83番目に位置しており、今後本学が生き残るには常に100番以内に位置づけられが必要となります。そしてその達成のためには平成28年度以来、卒業生の皆さん方には「工学アカデミア計画」の一環である「特別奨学事業」への寄付金募集を開始致しました。それらは本学の給付型奨学金制度であるリーダーシップアワード生の内、(i)フェローシップ（国立大学との授業料の差額分を給付）、(ii)メンバーシップ（年額25万円を給付）に充当させて戴き、入学後にリーダーシップを発揮する学生の確保を図つ



石川 憲一

特別奨学事業寄付金募集委員長
金沢工業大学名誉学長

ています。茲で、令和2年度の場合には学部全体として、フェローシップ生157名、メンバーシップ生254名を数え、給付金額には約2億円を計上しています。

尚、COVID-19の影響によって一時取り扱いを停止しておりました『古本活用事業』並びに『払込取扱票による寄附金募集活動』は順次再開致しておりますので、今後とも宜しくご支援賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆様のご活躍を

この度のコロナ禍は、我が国においても経済成長を著しく阻害・減速させ、その回復には今後2年程度の期間を要するとも言われています。このような国難とも言ふべき惨禍の中にあつて、皆様の心温まるご支援につきましては理事長のご挨拶において詳しく申し上げましたが、茲に改めて衷心より感謝申し上げます。

上述致しましたように、本学園は創立以来63年の歴史を着実に刻み、卒業生の皆さん方は国内に留まらず、グローバルにも縦横無尽な活躍をされていることと思います。これらの活躍こそが母校の名前を高め、後から続く者に眩いばかりの勇気と希望を与え、更なる発展の礎となるものと信じます。本学園はこの度のCOVID-19はもとより、これからも遭遇するであろう数多くの艱難を克服するためにもこぶし会の皆さん方と共に手を携え、協力のハーモニーを奏でながら歩んで参りたく思っています。

最後になりましたが、今後とも宜しく母校の発展のためにお力添え賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。



次号予告 ありがとう! 穴水湾自然学苑

昭和43(1968)年に開苑した穴水湾自然学苑は、老朽化のため幕を下ろします。これまで学生と教員が寝食を共にし、金沢工大学園の建学の精神の一つ「人間形成」を培う場となってきました。次号では、幅広い年代の卒業生が思い出を作ってきた穴水湾自然学苑の歴史などを振り返ります。

皆さんの思い出をお寄せください。

グループディスカッションや海域調査、ロープワーク講習、カッター操船といった授業を通して、仲間たちとのチームとしての連帯感や友情が深まったのではないのでしょうか。また、自然の中に身を置いて学んだ穴水湾自然学苑にはたくさんの思い出があるはずです。次号で掲載するコメントや写真をお寄せください。

※お送りいただいたコメントや写真は必ずしも掲載されるとは限りませんのでご了承ください。写真はなるべくデジタルデータでお送りください。

投稿先

こぶし会事務局 連絡先は裏表紙下段に掲載しております。

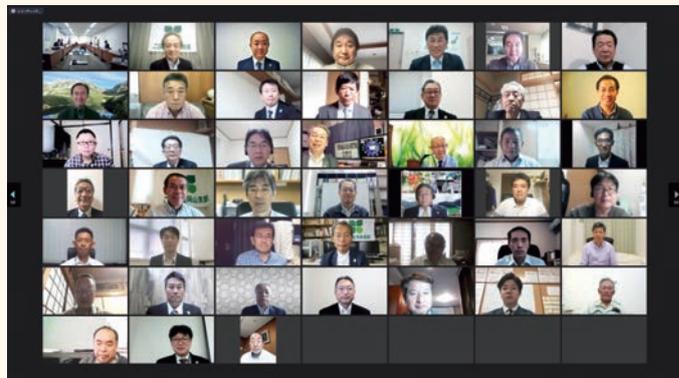
Information

現在、企画委員会でサマーセッションin 穴水の代替企画を検討していますので、決まり次第、ホームページで発表いたします。こぶし会ホームページでご確認いただくか、こぶし会事務局にお問い合わせください。



穴水湾自然学苑で開催されてきた
夏のイベント「サマーセッション in 穴水」は
昨年で終了いたしました。

令和2(2020)年度こぶし会全国支部代表者会議



全国支部代表者会議に参加した皆さん

支部代表者会議を初めてオンラインで開催！

こぶし会全国支部代表者会議が令和2(2020)年10月17日、初めてオンライン上で開催されました。こぶし会の役員や全国の支部長や代理者ら69人が出席し、新たな取り組みにチャレンジして、こぶし会活動を前進させていくことを確認しました。

オンライン会議では、松田真一会長(大学・情報・昭和50年卒)から「新型コロナウイルス感染症により、皆さまには活動の自粛、中止によって残念、不自由な思いをお掛けしたことをお詫びします。今回、オンライン会議を実施できたことは大変意義があり、今後も皆さまのご協力をお願いいたします」と挨拶がありました。

この後、古橋孝実支部委員長(大学・建築・平成8年卒)を議長に選び、今年度の事業の進捗状況や10月から実施する支部総会等の開催する際のコロナ対策マニュアルについて説明されました。

前年度の会議で各支部から出された要望に対しての回答では、若手の育成につなげるため、各支部で支部総会での会費補助を行っているケースがあることから、支部委員会で支援方法を検討しているとしました。

現在、地区会議が行われていない北信越(新潟・長野・富山、石川、福井)

と北関東(茨城、群馬、栃木、山梨)については、こぶし会として各支部長の意見を取りまとめた方向性を決定する案が示されました。石川支部の設立では、設立準備実行委員18人を選び、来年3月までに委員会を開催する意向です。

また、穴水湾自然学苑の取り壊しに伴い、「サマーセッション in 穴水」の代替案を考えてほしいという意見もありました。

令和3(2021)年度の全国支部代表者会議は奈良県で開催するとし、閉会しました。

全国支部代表者会議とは？

こぶし会は75,000人を超える会員が所属する同窓会組織です。7割以上の会員は石川県外で活躍されており、支部活動を通じてネットワークを最大限に生かしていくことが、ますます重要となっています。全国支部代表者会議は、47都道府県で活動する支部の代表者らが集まる会議です。各支部の特徴的な活動を紹介したり、お互いに意見交換したりすることで、支部活動の活性化につながっています。また、こぶし会全体の運営についても議論する場となっています。



①「学園からの要請により、こぶし会として困窮する学生に寄付をして支えることができた」と話す松田会長 ②福島支部の坂本誠二支部長(大学・機械・昭和53年卒)が「サマーセッション in 穴水」に代わるイベントの開催を要望しました ③福井支部の浮田隆之支部長(大学・電気・昭和58年卒)は北信越地区会議の早期設立を訴えました

動画を見ながら学校の歴史を解説

国際高専の第55回高専祭は令和2(2020)年10月17日、「WITH」(〜と共に)をテーマに、初めてオンラインで開催されました。ホームカミングデーについても動画配信形式で実施され、卒業生4人が学生時代の思い出などを語りました。

今回のホームカミングデーでは、昭和37(1962)年から令和2(2020)年までの写真を動画に編集した映像を見ながら、高専同窓会の野中正樹会長(機械・昭和49年卒)、西谷隆司副会長(電気・昭和53年卒)、北山博副会長(電気・昭和59年卒)、早川義造前会長(電気・昭和43年卒)

向井守副校長が当時の様子を解説しました。学生会の酒尾快都副会長(グローバル情報学科5年)と中西勇人書記(同5年)が司会を務めました。

早川前会長は「校舎がなかったから、できていく喜びがありました」と話し、北山副会長は「シンガポール修学旅行は私たちが最初でした」と振り返りました。向井副校長は「国際高専は高専スピリットを受け継いでいきたい」と意気込みました。

最後に、ルイス・パークスデール校長が「コロナ禍の状況を逆に利用して、学生、教員、卒業生が力を合わせていきましょう」と訴えました。



動画に解説者の映像も合成しました



教室をスタジオとして利用しました

鎮魂 (敬称略)

下記の方々がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

<特別会員>

令和2年8月 服部 陽一
(元大学教授)
3月 大島 弘安
(元大学教授)

<正会員>

穂積 研吾
(大学・経営・S59)
小森 博彰
(保二会・工大附・S43)
丸田 研一
(大学・機械・S45)
小林 正典
(保二会・電波専・S35)
内川 和夫
(大学・土木・S48)
今村 均
(高専・電気・S42)
浅田 英之
(高専・電気・S42)
平成26年 小杉 外喜雄
(保二会・工大附・S43)
平成28年 飯利 康行
(大学・土木・H2)
平成29年 林 政裕
(高専・機械・S50)
平成30年2月 川端 美紀
(大学・経営情報・H18)
令和元年5月 鈴木 博
(大学・情報処理・S57)

7月 後藤 悦郎
(大学・建築・S49)
石坂 直人
(大学・機械・S58)
8月 小島 昭
(大学・電気・S49)
金尾 保憲
(大学・建築・S56)
9月 高橋 輝雄
(大学・土木・S48)
西村 哲史
(大学・機械・S48)
10月 天秤 紳一
(大学・機械・S47)
埴田 徹
(高専・電気・S45)
松本 成昭
(高専・電気・S43)
佐藤 進
(大学・土木・S49)
12月 松本 繁治
(大学・電子・H14)
令和2年1月 藤中 正章
(高専・機械・S47)
北村 孝晃
(大学・環境システム・H18)
2月 荒木 保雄
(大学・土木・S46)
高橋 博
(保二会・電波高・S39)

3月 森 三郎
(大学・情報処理・S55)
鈴木 三成
(大学・土木・S50)
宮澤 伸明
(大学・経営・H4)
池内 和博
(大学・建築・S56)
5月 柄沢 明彦
(大学・経営・S55)
植野 敏広
(大学・経営・H1)
6月 千田 外志夫
(大学・機械・S47)
石田 信治
(大学・建築・S57)

中川 市三
(大学・建築・S59)
新宅 順徳
(大学・電気・S44)
7月 林 健一
(保二会・電波高・S42)
8月 毎田 勇
(保二会・電波高・S37)
築紫 教夫
(大学・土木・S49)
11月 神原 悠吾
(高専・電気・H19)
坂本 馨
(大学・機械・H2)

服部 陽一 名誉教授 逝去

服部陽一名誉教授が令和2(2020)年8月28日、病気のため逝去されました。85歳。服部名誉教授は東京大学工学部船舶工学科を卒業後、日立造船海洋本部構造担当部長、日立造船堺重工業設計部長を経て、昭和62(1987)年に教授に就任されました。平成16(2004)年から4年間、副学長(教育支援担当)も務められました。いつも穏やかで笑顔を絶やさず、学生や卒業生、教職員からの人望も厚かった。服部先生の功徳を偲び、衷心より哀悼の意を捧げます。



皆さんの声をお寄せください!

会員からのご意見・ご要望はこぶし会事務局へのメールや会報に同封のインフォメーションカード、こぶし会ホームページにて承ります。たくさんのお声が寄せられますことをお待ちしております。また、会報こぶしが届いていない卒業生の方が周囲にいらっしやいましたらお知らせください。

編集後記

- ◆昨年世界で流行している新型コロナウイルス感染症は、いまだ終息の兆しが見られません。そんな中、47都道府県の支部長らが出席した全国支部代表者会議が初めてオンラインで開かれました。当初は開催自体が危ぶまれましたが、オンラインでの実施を模索し、何とか開催にこぎ着けました。画面の上とはいえども、全国の支部長の顔が一堂にそろくと、同窓会としての一体感を感じずにはいられませんでした。
- ◆ところで、昨年はほとんどのこぶし会活動が自粛もしくは中止となりました。会員同士の交流が難しいことになりませんが、少しずつ平穏な日常が戻ってきてほしいと思います。新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、全国一斉ボウリング大会や支部総会などのイベントを開催できればと願っています。 /記 T.N

令和2(2020)年度秋の叙勲で次の方が受章されました。

瑞宝単光章

南賢雄氏

元警察庁技官
(保二会・電波・S35)

■ 会報こぶし63号から叙勲などの慶事を誌面でご紹介しておりますので、こぶし会事務局まで情報提供をお願いいたします。

こぶし会同窓会応援 同窓会開催を支援しています。

こぶし会では、卒業生のクラス会や研究室（ゼミ）、部活動等の同窓会の開催を支援する「同窓会応援」事業を実施しています。現在は新型コロナウイルス感染症により、同窓会開催を支援できる状況にはありません。安全であると判断した時点で支援を再開します。

支援内容

1 団体ごとに1人500円相当の記念品・支援金（通信費等の助成として）のいずれかを提供します。

申請方法

- 1 こぶし会事務局で申請書入手。（電話・メール・ファクス）
- 2 2週間前までに申請。（会員への案内30人以上が条件）
- 3 代表者を確認して登録完了。
- 4 集合写真で20人の参加を確認して支援。

お問い合わせ

こぶし会事務局 このページの下記に連絡先を掲載しております。
お気軽にお問い合わせください。



宮崎栄一・坂本康正研究室合同同窓会



後藤正美研究室 25周年同窓会



石川県庁金沢工業大学卒業生同窓会

※ 令和元（2019）年に開催された同窓会の写真です

こぶし会の コロナ対策

今年度は行事（活動）を延期・中止 最新情報はホームページをチェック



こぶし会では、新型コロナウイルス感染症の集団感染を防止する観点から、対面で実施する令和2（2020）年度の行事（活動）を、延期もしくは中止としました。現在、オンラインにおいて理事会や各委員会などを実施しており、この状況下にあってもこぶし会活動の推進に全力で取り組んでいます。令和3（2021）年度は、

こぶし会ゴルフ大会やこぶし祭、全国一斉ボウリング大会などのイベントを開催する予定です。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、延期や中止となることも十分考えられますので、こぶし会ホームページで最新情報を確認してください。

こぶし会を日本一の同窓会組織に！ 同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7（1995）年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**

75,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている未納入の方には、払込取扱票を同封しています。

■会費の払込方法 郵便払込（3年分一括払い3,000円）

お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードでご返送ください。

対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 令和3（2021）年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和3（2021）年3月末日で40歳以上の会員

*会費の納入は80歳までとさせていただきます。

*平成29（2017）年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和2（2020）年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。

こぶし会
事務局

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内
TEL.076-294-6375（直） FAX.076-294-0886
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.https://www.kobushi.jp



QRコードで
ホームページを
チェック！